

東京鷹桜同窓会報



秋の祝瓶山 [いわいがめやま](葉山・奥の院から)

巻頭の言葉

大友茂之

東京鷹桜同窓会事務局長(予定)
山形交通株式会社 次長



10月に入り、今年も東京鷹桜同窓会総会が開催される季節になってまいりました。今年は長引く経済不況に加え、地震、冷夏、大型台風などの自然災害が日本各地を襲い、多くの被害を与え近年にない大変な年になっています。

7月に行われた学年幹事会においてご推薦を受け、東京鷹桜同窓会の事務局長をやらせていただくことになりました。同窓会に参加して7年になりますが、各学年担当幹事を中心とした準備のおかげで、毎年充実した総会になっています。

しかし、幹事のいない学年もあり、今後益々有意義な同窓会活動を進めていくためには各学年に最低でも二人以上の学年幹事を選出し、幅の広い同窓会にしなければなりません。毎年三千通以上もの会報、総会案内を発送しており、仕事や諸事情で出席できない方も多いかと思いますが、是非一度は総会に参加して、母校や郷里の話を語り合おうではありませんか。

(昭和49年卒)



一歩一歩

わが道を行く

梅津ふじ

古曲一中節宇治派七代目家元



平成三年十月、古曲“一中節”
宇治派七代目家元「宇治紫文」の
名跡を襲名いたしましたから「山
形県長井市生まれの人がなられた
経緯は？」との質問を受けまして、
と申しますのは、一中節が元禄年

間に京都で「都大夫一中」の手に依って生まれた
浄瑠璃で、その意味からも問われた事と思います。

私は長井生まれの長井育ちですが、幼時より音
楽好きで、家には種々の楽器があり、当時は蓄音
機でしたが、義太夫や清元の名人、かたやコルト
ーのピアノ曲等、和洋混合で何の違和感もなく耳
に入ってくる日常でした。

昭和19年正月、当時長井町の片田に疎開された
箏曲の中田博之先生の門下生となりました事が、
今日の私の起点となるご縁の始まりでした。

先生は子供の私に、シャープな音、間の大切さ
を教えてくださいました。5年半にわたって長井
に豊かな文化の香りを残されて帰京なさいました。

丁度そのころ、父が照れ隠しに私を連れては小
唄の稽古に参りましたが、ただ聴くだけの退屈し
のぎに自己流の楽譜を書きはじめ、それが後年、
私の春日派小唄師範の母体となりました。

何としても本格的な勉強がしたい一心で上京。
中田先生のレッスンと作曲、演奏活動の一員とし
て、貴重な体験と素晴らしい方々との交流があり
ました。『一中節』との出会いは偶然で、まだモ
ノクロテレビの頃、踊りの「地」で聴き大きな感
動を受け、何とか勉強したいと中田先生にお許し
をいただきご紹介を頂いたのが、六世宇治紫文師
で、また得難いご縁をいただくことになりました。

一中節宇治派は、1849年に江戸浅草生まれの、
宇治紫文斎によって樹立され、都（みやこ）、菅
野（すがの）の三派の中で最も新しく、それだけ
に近代的感覚も持ち合わせておりますし、山田流
箏曲との交流も深く、お箏と掛け合いの曲も多く
残されております。また、この一中節から常磐津
清元、新内等の浄瑠璃が生まれた訳ですから、唄
物の基本として大切なものであります。

六世宇治紫文師は三味線の名手で80kgの堂々た
るお体で豪放磊落、エピソードも多く、ユニーク

な方でしたが、芸に対しては大変厳しく、微塵も
妥協はありませんでした。

迫力のあるお稽古で、難しい所を繰り返して「わ
かったかい」、恐いので「ハイッ」と言う具合で
長い時は4時間も夢中でやり通し、「オヤッ、こ
んなに暗くなったよ、さあ、ご飯を食べてお帰ん
なさい」と、台所に立たれたものでした。

一曲仕上がりますと、「よく覚えてくれたね、
ありがとう」と、頭を下げられたものですが、そ
れだけ一中節を愛しみ大切にしておられました。

「私は一中節に命をかけている」と常々言われ、
早々にリサイタルもなさいましたが、家元になら
れて僅か五年で他界されました。

病院で毎日のように「あゝもしたい。こうもし
たい」と多くの予定、また浄瑠璃とは……等々、
熱っぽく語られました。

現在、家元を継承致しまして、事にあたる度毎
に、六代目の代わりを勤めさせていただき気持ち
で臨みます。

何百年も伝えられてきた伝統芸にある深みと美
しさに感動し、先人が心血を注いで残されたもの
を受け継ぐと言う事は、形はもとより、その心で
あると存じます。眼には見えずとも、心の絆で、
しっかりと結ばれている事を感じ、そうした心意
気が後世へ伝えていく生命であると思います。

演奏の度に、先人の感性の素晴らしさと、日本
語を活かした作曲に感動し、奥の深さを感じてお
ります。この度一中節も先人の努力が認められ、
重要無形文化財に定められましたが、これを機に
若い人々にも、日本人として民族音楽をまず聴い
ていただきたく、一人でも多くの方の心に響くこ
とを願い、毎年リサイタルを続けて参りたいと念
じております。そして貴重な後継者を育てたいと
祈って、一歩一歩まいります。

故郷長井でも、小さいながら内容の充実した演
奏会を催して、浄瑠璃の響きを味わって頂きたい
と考えております。家元襲名に当たり、長井市の
有志の方々に依る後援会を組織して頂き、各方面
よりご支援賜りまして、心より感謝申し上げます
と共に、少しでも良いお報せが出来ますようにと
精進してまいります。 (昭和27年卒)

先生お元気ですか

齢八十二、いよいよ楽しく

代え難い、心の宝

鈴木倉雄先生

(歴史)

管間誠一先生

(数学)



長いことみなさんの母校で教師をしたお陰で、毎年いくつかの同窓会に招かれる。早い卒業生は67～68歳にもなっているので、社会的にも経済的にも私より上なのはもちろんだが、中には頭の禿げ方腹の出かたまで私より数段上の者もおる。同級会の大半は春と秋に集中しがちなので、重ならないようにと心配するのも、うれしい悩みのひとつである。「在学中にたいした事もしてやれなかったのに何時も招待してくれる」と感謝しながら、できるだけ出席している。

50代のある日、誘われるままに「古文書を勉強する会」に入会し、今もって末席を汚している。30年近くも学習しているのに、学力は皆無に等しいが、元同僚の川村先生はじめ数人の教え子とも机を並べられるのがなによりもうれしい。

古文書を手がけた関係から拓本もするようになった。朝早くタンポを使って採拓する楽しみは格別である。出来た作品の一部は表具して床の間に掛け自画自賛したり、稀には公民館などに出品することもある。

担当教科が歴史であったので、市の「史談会」にも入会して、いろいろな方のお話を聞いたり、各地の巡見にも参加して楽しんでいる。稀には私の下手な話を聞いてもらうこともある。

いつの間にか齢八十二。今では老人会の重要メンバー。会の最大行事春秋二回の地区公民館除草には率先参加し会員との対話を楽しんでいる。

古文書会でも、史談会でも、また老人会でも年何回か研修旅行がある。これにもできるだけ参加している。9月には古文書会の「三方五湖・小浜・天の橋立・姫路」方面を中心とする研修旅行に参加することにしている。

幸い健康の方もまあまあな上、三世代同居なので毎日ガヤガヤワイワイで暮らしている。あの世の家もできているが、娑婆も人手不足の様子。もうしばらくの間このまま居座ることにした。



同窓会の一人として、東京鷹桜同窓会々員諸兄姉の近況やご活躍振りを、同級会の席上や会報で知るたび、いつも心強く感じていたところです。今回図らずも編集委員の方から、近況の照会を受けましたが、お陰様で達者で暮らしております。——長井高校には26年間勤務。昭和52年度から、車で数分の荒砥高校に転任。平成元年春、荒高を最後に退職。五十肩では再度苦勞しましたがようやく治り、腰痛も鎮静化しており、体調はますますです。——現在は小学校に上がった孫達の相手をしたり、僅かばかりの家庭菜園で汗を流すことに喜びを味わっています。他には町芸文協の謡曲（観世流梅若）に加わって、月3回は大きな声を出しています。ついでに芸文協の事務局員として、広報編集と少ない会計のやり繰りに頭をひねったり、町内長として、配布物・納金・会合出席等の雑用役で体を動かし、ボケの進行を防いでいます。

特に今年は、新体育館建設に伴う整備事業常任実行委員という訳で、久しぶりに思い出多い母校に顔を出しています。顧みれば、数学の教科授業はさておき、昭和一桁生まれの戦中派世代の自分が、昭和の難しい世相に迷子にもならず、教師一筋に大過なくすごせたのは、時代に鋭敏な若い諸君の青春パワーに、いつも心惹かれ続けていたからです。教壇生活は、38年の歳月を数えました。

幸い母校では、長いことクラス担任が出来ました。お陰で特に退職後は、50代前後で働き盛りの教え子の皆さんから毎年各地の同窓会やクラス会にお招きいただき、昔に戻って楽しい一宵を過ごせる境遇です。これぞ何ものにも代え難い心の宝と感謝しています。久闊の興奮・人生談への共鳴・投合と、精神のリフレッシュには最高の場です。

*

教育現場を離れたこの頃は、個性尊重の学習を徹底するなら「教える」に傾かず「育てる」面に視点を据えた指導が先決等と考える徒然です。

あの日

あの頃

芳武茂介先輩と樹村房



今年8月4日、朝日新聞の夕刊で芳武茂介先輩の訃報に接した。その日は夜遅く帰宅したので、翌朝、東京鷹桜同窓会の高橋正二会長に電話を差し上げたら、昨夜は自宅に居られたらしく、万事手配済みであった。芳武茂介先輩は旧制長井中学第4回(昭和3年)の卒業で、高橋正二会長は第8回卒業であられる。そしてその夜の通夜には、第1回卒の長沼孝三先輩(東京鷹桜同窓会初代会長)、第5回卒の桑島喜平先輩と同道されるということであった。私は予定が変えられず、同道不可能であった。

あの日

それは昭和56年、東京鷹桜同窓会総会に出席された芳武先輩を高橋会長が、挨拶の冒頭で特別にみんなに紹介され「ニュークラフトデザイン運動の提唱者であられる芳武茂介先輩がこの度『用のかたち・用の美』という、このように立派な本を講談社より出版されました」と言って示された。

25cm四方の真四角な大判のその本は、芳武先輩がそれまで造られた、鉄・ガラス・陶・木・紙などを素材にしたすばらしい器や灯器など、作品の写真と「雑感」として『芸術新潮』その他に執筆された文などをまとめたものであった。

お、！ われらには、すばらしい先輩がいる。喜びとともに、少なからぬ刺激を受けた。

私はさっそくその『用のかたち・用の美』を持って会員の間を注文を取って回った。皆さん、頁を開いては目を見張り、注文してくれた。

1週間ほど経った頃、芳武先輩から礼状と色紙が届き、見事なあげびが描かれていた。私には身に余るお礼の品であった。

芳武先輩は、明治43年生まれ。宮内町の出身で長井中学から上野の東京美術学校(現在の東京芸術大学美術学部)に学び、昭和10年、商工省工芸指導所(仙台)に勤務し昭和36年退官まで通産技官として活躍された。

その間、創作工芸協会を結成(昭和27年)。北

木村 繁(昭和28年卒)

株式会社樹村房 代表取締役

欧デザインを中心に視察(昭和33年帰国)。帰国後同志とニュークラフト展を開催してクラフトデザイン運動を興した(昭和33年)。

昭和36年、退官して武蔵野美術学校(現・武蔵野美術大学)教授となられ、その年、上山市の依頼で斎藤茂吉歌碑のデザインとパネルを作製。銀座資生堂ビルの改築で壁面照明のデザイン及び製作(昭和37年)。また懶吉野石膏の社長顕彰碑デザインとパネルの作製(昭和40年)など、その他赫々たる活躍により、昭和51年、芸術選奨文部大臣賞を受賞。昭和56年同大学を定年退官され、集大成した作品集を記念出版されたのだった。又同年、日本デザイナー・クラフトマン協会(現・社団法人日本クラフトデザイン協会)を創設した斯界の先駆者である。

あの頃

私はその前年の昭和55年、20年勤めた出版社を退社し、9月に志を持って新しい出版社「樹村房」を興した。

大学や短期大学のテキストや参考書を主に、いわゆる地味な専門書・準専門書の出版で、教育学・心理学・図書館学・食品栄養学などの分野である。

あれから満13年が経過し、やっと基礎が固まり、短大関係では少しは知られるようになった。図書館シリーズでは他社を抜いていると好評で、また本格的な「食」の辞典として刊行した『簡明食辞林』も評価が高く、年々部数が伸びている。

出版は今、ずーっと冬の時代と言われている。特に真面目な出版でそう言われて久しい。しかし確かな知識は真面目な出版物によって身につくものと確信し、また社会の文化を担うと自負しながら、これからも活字を追いかけて暮らす日が続きそうである。

芳武茂介氏(よしただけ)
もすけクラフトデザイン
ナ1、武蔵野美術大学名誉
教授、工芸財団理事。3日
午後6時10分、心不全のため
死去、83歳。葬儀・告別式
は6日正午から同区堀ノ内
3の48の8の妙法寺堀ノ内
静堂で。喪主は妻水無子
(みなこ)さん。自宅は同
区方南1の23の9。
ニュークラフト運動を唱
えて、58年に日本デザイン
1・クラフトマン協会(現
・社団法人日本クラフトデ
ザイン協会)を創設。76年
に芸術選奨文部大臣賞を受
けた。

あのひと

このひと



思い出深い高校生活

森戸 繁

東京都渋谷区立広尾中学校教諭



長井の味をひきずって

柴田 静子

長井高校を卒業して早くも25年経っていますがそんなに長い年月が経過したとは思えません。

いつの間にか親元で暮らした年月よりも、東京で暮らした年月の方が長くなってしまいました。

三年前、高校2年の時の同級生であった鈴木勉君から、東京に鷹桜同窓会の東京支部があるということを知りませんでした。その年、鈴木君と初めて東京鷹桜同窓会の集まりに出席し、そこで1年下の音楽部の後輩3名(完戸君、長岡さん、中山君)と再会しました。音楽部は、あの頃の私にとって高校生活の全てと言ってもいいほど入れ込んでいました。クラブ内の男女の仲も良く、狭い部室ではありましたが、そこへ行けば誰かがいて、何か安らぎを感じさせてくれる空間でした。休み時間も音楽室のピアノの回りに集まっては歌い、土曜日には弁当を音楽室に持って来てはワイワイ話しながら食べたりもしました。あの当時、山形東が合唱においてトップレベルにあり、何とか追いつこうと練習に励みました。結果的には勝てませんでしたが、優秀校に選ばれ、仙台で行われた東北大会では3位に入賞でき、皆で感激の涙を流しました。いつの日かまた、あの時のメンバーで山口先生の指揮の下、同じ音楽室で歌えたらと思っています。

私は生まれも育ちも鶴岡で、高校2年になる時父の転勤で長井高校に転校してきました。実質2年間しかいませんでしたが、思い出深い高校生活を送れたと思っています。現在、両親は鶴岡に戻っており、長井に行くことはまずないと思いますが、長井高校で音楽を通して素晴らしい出会いを持ったことに感謝しています。

(昭和43年卒)

私が住んでいる所は、町田市玉川学園です。ここ数十年、ご多分にもれず開発は凄まじいものですが、まだ緑が多く残っている地域です。

さて、年齢を重ねる毎にふるさとへの想いが増すのか、生活そのものが無意識のうちに長井での生活に近づいている様な今日この頃です。

その一つが家庭菜園。最初は庭の一部にちよぼちよぼだったのが、今では80坪程耕しています。さやえんどう、ほうれん草、里芋に夏野菜など、野菜はほとんど自家製で間に合うようになりました。さらには生ゴミ、落ち葉、古畳などを混ぜての堆肥作り、切り干し大根やズイキ干し、胡瓜の古漬、味噌などの加工食品作りに精を出しています。胡瓜などは、朝採った物と昼や夕方採った物とでは味が随分違うのです。その他思いもかけない発見があったりしてなかなか楽しいものです。

先日、南校で一年後輩の守谷圭子さん(現在同じ町内会に所属)といっしょに、じゃがいも、トマト、胡瓜採りをしました。「久しぶりにヘクソ虫のにおいが懐かしいわ」から始まって、最近ではほとんど使うことがない言葉が飛び出すやらずで楽しくふんわりした気持ちになったところです。

それにしても、世の中飽食の時代と言われながら、膨大なエネルギーを消費してのビニールハウス、バイオ、養殖で『旬』なんて言葉はどこへやら、これでは本物の味がわかるわけがない。

様々な食品が、四季を問わずに氾濫し、いつでも自由に選択でき、一見豊かに見えますが、中身は何と貧しいことでしょう。

古い！と言われても、人間の本来の生き方は、もっと素朴でいいのでは、と切に思う今日この頃です。

(昭和34年卒)

千 鷹 桜 通 信

長沼孝三 (大14年卒) あいにく長井に参りますので出席できず残念。皆さんによろしく。ご盛会をお祈り致します。

大國輝威 (昭3年卒) 当日先約があり残念ながら欠席させていただきます。私事従来通り昭和シェル石油に勤務しております。皆様のご健康をお祈り致します。

倉島 米 (昭4年卒) ご盛会お祈り致します。80歳にもうすぐ手が届きますが、未だ歯科医として働いております。

林崎春子 (昭4年卒) 会報をご送付いただき大変懐かしく拝見しました。私は80歳に手が届く年齢で淋しさ悲しさ等ゴチャマゼの気持ちで暮らしております。山形や長井の話に聞き耳を立て、皆様のご健康をお祈り致します。

上田三代次 (昭6年卒) ご案内状誠にありがとうございました。療養中 (腎臓) のため欠席致します。

加藤益江 (昭10年卒) 表紙の山形新幹線 (つばさ) の写真たいへん嬉しく思いました。山形もだんだんこれからはクローズアップされていくであろうと楽しみでなりません。会報ありがとうございました。事務局の皆様のお骨折り、感謝いたします。ご発展をお祈り致します。

鈴木いと (昭10年卒) あいにく用があり欠席致します。柏谷久子さんの記事、感銘深く読ませていただきました。私も地域の若い方老いた方のお相手をいたし、聞き上手を心掛けております。ますますのご発展をお祈り致します。

嘉藤吉郎 (昭15年卒) 会報11号感謝。ご案内をいただき感謝します。私は只今、調布キリスト教 (プロテスタント) に所属して聖日 (主の日) 礼拝を守っていますので、欠席致します。諸兄の上に、主の恵みを心からお祈り致します。盛会をお祈り致します。祈平安。

吉田真人 (昭20年卒) 真言宗豊山派大本山護国寺における記念法要の役僧として出仕のため欠席させていただきます。ご盛会をお祈りいたします。

小口 巽 (昭22年卒) 妻が病気で6月から8月まで埼玉県立ガンセンターに入院しており、大

変な夏でした。幸い8月末に退院して家で治療しており快方へ向かっております。そんな事で御無沙汰しております。

滝井いち (昭23年卒) ご案内ありがとうございます。なかなか出席のチャンスがなく失礼しております。墓参の折、数名の方にお目に掛かりなつかしく、またすっかりきれいになりました長井の町に驚いております。薬師寺様にはよくお話をうけたまわっております。

永井辰雄 (昭24年卒) 誠に残念ですが、法哲学会で京都大学に出張いたしますので欠席いたします。同窓会ご一同のご健勝を心からお祈りいたします。

新野吉男 (昭26年卒) 37年間勤務いたしました会社を定年退職しました。10月3日からチェコスロバキア、ドイツなどを廻ってきます。時間ができたので同窓会出席いたしたく考えておりましたので残念です。ご盛会を祈っております。

小野幸子 (昭28年卒) 過日、父の法事で帰省はいたしました。山形新幹線の乗り心地も良く福島から赤湯までの風景も大変新鮮に感じられました。今年には紅花国体も開かれ山形新幹線が開通するなど、山形が全国的に注目される年で山形の良さを再認識できれば良いと思っております。同窓会は長男夫婦との旅行を計画しておりましたので残念ながら欠席させていただきます。ご盛会をお祈りいたします。

佐藤ふみ子 (昭31年卒) 会報ありがとうございます。会報を読ませていただいて高校時代になったつもりです。とてもうれしく思っています。勤務 (保育園長) と私用があり出席できず残念です。皆様のご活躍をお祈りいたします。

丸山さく (昭31年卒) 残念ながら小笠原村の方に巡回診療に出張しておりますので出席できず申し訳ありません。ご盛会をお祈りもうしあげます。皆様お体にお気をつけくださいますように。

小関敏子 (昭32年卒) 会報を通して懐かしい皆さんにお会いしたようです。益々のご発展を祈っております。

榎本エイコ (昭34年卒) 時田さんの「35年ぶりの田植え」を読ませていただき、当時の田園風景が蘇ってまいりました。中学生の私が母と苗取りのアルバイトをした時の事、本当に懐かしく思い出されます。その母もこの9月、90歳3か月で亡くなりました。新幹線が出来て故郷は近くなったというのに……。

小川節子(昭35年卒) 会報の新幹線つばさを見て「故郷へ行きましょう」と呼びかけているようでとても懐かしいです。

斎藤靖夫(昭36年卒) 役員の皆様のご苦勞に感謝申し上げます。当日は関係団体のイベントが開催されるため残念ながら欠席させていただきます。申し訳ありません。つくばの山里からご盛会をご祈念もうしあげます。

中村宏二(昭38年卒) 会報にて上屋事務局長のお写真を懐かしく拝見させていただきました。大学(中央)入学時、お世話になりました。よろしくお伝えください。

色摩三紀雄(昭39年卒) 一年中、仕事にスキー(全日本専門委員)に追われています。

丸川 満(昭39年卒) 現在、独立して新会社設立中につき多忙で欠席いたします。ご盛会を祈っております。

大崎弘子(昭40年卒) 会報をいただく度にもう一年経ったんだと時の流れの速さを痛感いたします。係の皆様ご苦勞さまで。今年もまた懐かしい先生(高橋静夫先生)の近況を知ることができて嬉しく思いました。今後ともよろしく願いいたします。残念ながら、今年も欠席させていただきます。

小出正史(昭42年卒) 会報ありがとうございました。現在の勤務校で創立記念事業の準備を担当しており改めて同窓会の重要性を痛感しております。今後は少しでも母校に協力できるように考えていきたいと思っています。

山岸英一(昭44年卒) 教員生活も後半に入り毎日忙しい日を送っています。巡り合わせかどうか分かりませんが、私の教え子(バレーボール選手)が置賜のバレーボール技術講習会で後輩達を指導している話をきくたびに懐かしく思っております。

羽田由紀子(昭44年卒) いつもご連絡ありがとうございます。今回も残念ながら欠席させていただきます。会報の高橋先生、青木さんの記事大変つかしく拝見しました。

井澤小一(昭45年卒) 会報に懐かしい大道寺邦彦先生の言葉があり、1年と3年と確か担任してくださったかと思ひ、今同じ教職にあり思うところが同じような事で、いまさらながら親近感を覚えました。ご迷惑のかけとおしでもうしわけなかったと思っております。先生の健康とご多幸、そして同窓会の益々の発展を祈念しております。

大石正子(昭49年卒) ご連絡ありがとうございました。今回の会報の中に、大道寺・高橋両先生の懐かしいお名前とお写真を拝見して、しばし若き日の思い出にひたりました。毎年、今年こそは総会に参加してみようかしらと思いつつチャンスを逃して参りました。子供から手が離れましたら是非お仲間に加えていただきたいと存じます。

金指肇子(昭49年卒) 会報ありがとうございます。長井の皆様の活躍ぶり、とても嬉しく励みにもなります。この4月から下の子も入学し出掛けやすくなりましたが、当日は他の用事で出席できません。次回楽しみにしております。

海沼志津子(昭49年卒) いつもご連絡をいただきありがとうございます。残念ながら今回も欠席させていただきます。次回のご案内を楽しみに待ってたいと思います。

高橋義行(昭50年卒) 初めて同窓会の案内と会報をいただきました。牛久に住んで10年目になりますが、ここも首都圏の仲間入りをしたという事でしょうか。会報中、高橋静夫先生を見つけてとても嬉しく思いました。昨年学位を取り、所属学会から学術奨励賞をいただきました。毎日忙しく時間は加速度的に過ぎていくようです。たまには昔を思い出してみるのも素敵ですね。これからもよろしく願いいたします。

手塚由利子(昭50年卒) 出席できず残念です。在学中お世話になった大道寺先生、高橋先生を拝見し、とても懐かしく読ませていただきました。横山氏の「わが道を行く」はとても素晴らしく早速「20のEC物語」を購入しました。

加納隆子(昭54年卒) 会報のご案内ありがとうございます。この間結婚したつもりでいても、もう7年経ってしまいました。卒業して13年も経つのかと思うと妙に長井高校のポプラ並木が懐かしいです。当時陸上部に所属していた私にとってあの木陰にどれだけ心が休まった事が……残念ながら欠席ですが、会員の皆様のご繁栄を祈っております。

* * *

今回も多くのお便りありがとうございました。昭和20~30年代卒の方のお便りが多く、母校が懐かしくなる年代なのでしょう。次回も幅広い皆様からのお便りをおまちしております。

このコーナーが卒業生の皆さんの交流の場になれば幸いです。今年の返信が数多いことを祈りつつ……。

◇事務局からのお知らせ◇

(1) 活動報告

平成4年6月17日 学年幹事を銀座のリクルートアネックスの会議室に於いて行う。35名出席。

(イ) 会費値上げの件

(ロ) 新人の方にも応分の負担を

7月16日 会報11号の編集会議

9月23日 案内状の発送。四谷の中央リサーチの事務所(35年卒の坂本さんの厚意で)を借り、昭和37年卒と昭和44年卒の会員の協力により、案内状及び会報の発送を行った。

10月18日 平成4年度東京鷹桜同窓会総会を、銀座“高松”にて開催。100名が参加。

本部からは大泉慎一学校長、渡部健二副会長、小国支部長の伊藤運一氏、本部事務局長の相田喜代志先生が出席された。新人は3名だけで少々さみしかった。

12月2日 忘年会を兼ねて、総会の反省会と慰労会を行った。

平成5年4月26日 本部にて支部長会議に高橋会長が出席(長井にて)。

5月18日 事務局会議を土屋法律事務所にて。

7月1日 学年幹事を市ヶ谷の私学会館会議室に於いて行った。出席35名。

平成5年度の総会を東京都庁内にあるレストランで開催することを話し合った。

(2) 平成4年度 会計報告

(平成4年4月1日～平成5年3月31日)

〈収入〉

前年度繰越金	691,761
事務費(779口)	779,000
総会会費	713,000
幹事会会費	139,000
祝儀	70,000
本部助成金	10,000
受取利息	15,861
計	2,418,622(A)

〈支出〉

総会費	647,025
事務費	21,961
会議費(幹事会含む)	379,213
印刷費	196,849
通信費	358,461
交通費	31,500
本部同窓会協力金	30,000
本部総会パーティー券	30,000
祝い金	10,000
計	1,705,009(B)

(A) - (B) = 713,613 ~次期繰越金

(会計 末吉 暁子)

編集後記 何年に一度の冷夏、追い打ちをかける様な台風の上陸回数の多さ、母校のある早苗ヶ原周辺の田園風景が心配になる今日この頃です。

会員の皆様、お元気で過ごしてはいかがでしょうか。本年も多くの方のご協力を得て会報をお届けすることができました。いつもギリギリの日程での原稿依頼。そして締切り近くのうるさい位のプッシュ。記事をご依頼した方々に対して心から恐縮しております。

この様な状況の中、原稿をご寄稿いただいた皆様に改めて心からお礼申し上げます。ありがとうございました。本年の表紙の写真は、本校昭和47年卒業で現在長井市役所に勤務されている宇津木正紀さんより拝借いたしました。この写真は、同氏が勤務の傍、撮影を続けられた中の作品です。

宇津木さんの作品は『朝日連峰の彩り』のタイトルで「ぶなの木出版」より定価2000円にて刊行されています。

懐かしい故郷の山々の他、多くの植物の写真が掲載されております。是非ご覧ください。

今回も約3500名の皆さんにこの会報が届けられる事と思います。発送作業にも多くの皆さんのご協力をいただくこととなります。数多くのお便りをお願いします。また、来る年度総会では、昨年以上の皆様の賑やかな交流の場になることを期待しつつ筆を置きます。(遠藤)

東京鷹桜同窓会報 第12号

平成5年10月1日 発行

発行人：東京鷹桜同窓会

編集委員：遠藤 剛

*東京鷹桜同窓会：長井中学・長井高女・長井南・長井北・長井高校の卒業生による東京首都圏在住者の同窓会組織

*事務局：〒107 東京都港区赤坂1-6-14 赤坂協和ビル204 上屋・味岡法律事務所内 (電話：03-5570-5834)